

森林インストラクターの森下刈り作業

2020年8月9日(日)晴れ

参加者:7名

報告者:近江拓雄

「猛暑日に 長靴を履き 草を刈る」(たくを)
「ぬいてもぬいても 草の執着をぬく」(山頭火)



出発前、ときがわ町役場第二庁舎の集合場所に会員の斎藤さん(深谷在住)が来られスイカ(自作)大玉2個とシソ科の山野草「シモバシラ」2鉢を頂いた。斎藤さんは差入れだけをして戻られた。遠路のわざわざである。…感謝!ありがとうございました…

今日は暑い。ときがわの森へ行く途中にキャンプや川遊びができる溪谷がある。9時なのに既に駐車場は満杯。路上駐車も始まっている。この暑さで考えることは皆一緒だ。なのに、本日は長袖、長靴、手袋、ヘルメット、タオルを頭や首に巻きながら、大鎌を担いでその先の森へ入って行くのである。
"汗もまた涼なり" 猛暑下の草刈りは鍛錬に近い。

楽しい昼飯はウッドデッキテラスで摂る。まずはウッドデッキにテーブルを組み立て作業から始めた。ブルーシートを取ると100万匹のシロアリがウジャウジャであった。この凄さ、参りました。先月の続きの下刈り。各自持ち場に散らばった。タイミングよく鹿の大きな鳴き声が聞こえた。「頑張れ! オジサンたち」と言っているのだろうか? 暑さを忘れる男達の作業がスタートした。途中、休憩を入れ誰も倒れることなく下刈り作業を無事終えた。

…男達の汗は滝となり大地を潤した…

屋食だ。斎藤さんから頂いたスイカは溪流で冷やしてある。小刀でバツサリ、雑に、豪快に切って、割る。ガブリ噛みつく。甘くて美味。皆、子どものように喰らいつく。みんな無言である。シモバシラを植え、スイカの食い残しを土壤栄養として穴を掘り添えた。本田さんがセンチコガネを見つけた。私は「小さい(cm)コガネムシという意味なのか?」

と思った。溪流にオオバアサガラがある。実を房状にたわわにぶら下げていた。朝方の溪流川遊び場は大混雑の超密が続いていた。コロナは大丈夫なのか? コロナ渦の作業であったがコロナ感染対策行動指針に則り無事終了した。



マツカゼソウ